

子供たちの夢のために。

Pluck up your Heart!

ブラック・アップ・ユア・ハート

昨年の暮れに、藤川球児投手の成功の足跡が平成 22 年度の道徳教科書に採用されるというニュースが飛び込んできた。光文書院が出版する「ゆたかな心・新しい道徳」がそれで、苦難を乗り越えて日本を代表する抑え投手に上り詰めた足跡が紹介されている。

小学校学習指導要領の 5、6 年生の道徳部門で重要テーマの一つに掲げられている「自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす」に対応する人物、題材として 07 年 12 月に出版された「藤川球児ストレートという名の魔球」がリストアップされ、同社は阪神球団などに協力を要請。「藤川選手の力強い生き方を道徳教育に役立てたい」という申し出に球児本人も快諾し、採用が決まった。

児童の関心の高さや親しみやすさなどが考慮され、球児の題材は全 35 編中の巻頭に掲載され、度重なる肩の故障に苦しんだ 04 年に、山口投手コーチと二人三脚で新フォームを確立し、伝説の火の玉ストレートを手に入れるまでの足跡が 4 ページにわたって紹介されている。過去の道徳教科書では王貞治氏、星野仙一氏ら複数の題材が取り上げられているが、現役選手の登場は希少で、国内の現役プロ野球選手の登場は極めて異例のことである。

藤川

「阪神タイガース」

22

Kyuji Fujikawa

球児

ストレートのファンタジスタが2010年胸に期する思い。

それは飽くなき勝利への渴望だった。

人々から目標とされる人物となった今も、常に自らを問いただし前進を続ける“人間藤川球児”

最高に「格好いい」男の姿がここにある。



僕らプロのガチンコ勝負を見て、 子供たちは夢を持てるんじゃないかな。

「一野球選手でしかない僕がやってきたことが、こんな形で紹介されることになるとは夢にも思わなかった。本当に光栄なことです。何もかもをあきらめてしまいそうになった時に、僕は山口投手コーチに出会った。教えてくれる人の言葉を信じて努力すれば必ず報われるということを知って分かってもらえたら」と笑みを浮かべた。

球児は以前から子供たちや、未来を担う若い世代に手本となり、夢を与え続けられる存在になりたいと語ってきたが、最近では「悩んでいる子供たちと一緒に勉強したい」「ちびっこ達（小・中学生）に野球を教えたい」と発言する等その気持ちは日増しに強くなってきているように感じる。

阪神タイガースに入団し、度重なる苦難を乗り越え 04年のフォーム改造以来、がむしゃらに戦い数々の栄誉を手にしてきた守護神も、いつしかチーム投手陣のリーダー的存在となり、若手選手にも手本となることが要求される立場にきている。若い時には自分の結果を残すことだけを考えればよかったかもしれないが、今では立場がちがう。自分の結果をのこしつつ、若手の視線も意識した行動が必要になる。これはチーム内の事だけではない。一度マウンドに上がれば日本中の子供たちがその一挙手一投足を固唾をのんで見守っている。チームを、自分を応援してくれているファンの夢があるからこそ、自分本位の行動はとれない。この事だけでも彼なりに色々な悩みや葛藤があった事は容易に想像できる。

言葉でうまく伝えられなくても、行動で示す事で心に訴えかける事ができる。「大人の真剣勝負に挑む姿を見て、子供たちは夢を抱くことが出来る」実際に言葉で子供たちに伝える事は難しいかもしれないが、今は野球で真剣勝負をする藤川球児の姿を見せる事が子供たちへの生きた教本となると球児は感じている。



ファンの人に求められているのは勝つこと
勝つことがすべてです。

子供が「格好いい」と思える大人は、言葉が格好いいのではなく、行動が格好いいからだ。はじめはどこにでもいる普通の人でも、自分の信じる道をまっすぐに突き進み、確実に足跡を残してきた人間には誰にも負けない風格が携わる。それを「個性」と感じ、人は「格好いい」と賞賛する。

藤川球児という人間には、この風格も個性も際立っている。それはプロ野球選手という目標の中で、努力に努力を重ね、度重なる「悩み」や「挫折」のなかから自分なりの答えを出し、乗り越えてきた経験が彼自身を輝かせているからであろう。“火の玉ストレート”が球児の代名詞であり個性の一つであるが、その裏に垣間見える努力の跡や野球に対する姿勢が、子供ならず大人までも魅了する本当の「格好よさ」につながっているのではないだろうか。

チームはここ数年優勝から遠ざかっているが、球児の勝利への欲求は誰よりも強い。「ファンの方から一番求められていることは勝つこと。勝つことがすべてです。」と語り、「1回でも多くマウンドに上がりたい」という視線から05年に達成した80試合登板を目標に「そうなれば勝てるチャンスも増えてくるだろうし、優勝に近づくとと思う。それに対応するくらいの気力、体力は年とともに充実してきているから。登板試合が増えるようにみんなに引っ張り出してもらおう」と今期にかける意気込みを口にしてしている。守護神が80試合も登板するなら、単純計算で80勝は可能という計算になる。優勝ラインどころかぶっちぎりVになる数字。現実的には難しいが「今年は勝ちに執着していきたい」と、とにかく白星を増やすことから生まれた目標でもあった。

昨年、一昨年とチームの不本意な成績に人一倍責任を感じ、自分自身に大きな目標を掲げることで新たな挑戦の歴史を刻もうとしているのだ。自分に求められているもの、とりわけ子供達に背中を見せたいと考えている球児にとって、磨かなければいけないもの。それは言うまでもなく“火の玉ストレート”の進化である。来ると分かっているけど打てない、魔球といわれるファイヤーボールの復活こそが、勝利を導く鍵となることを、本人が一番理解している。2010年バージョンのグラブに刻まれた文字。それは「Pluck up your Heart! (ここが踏ん張りどころ)」決意が込められた言葉である。今期は球児がストレートで打者を打ち取るシーンが多く見られるに違いない。

無謀とも思える目標かもしれないが、常に有言実行でこれまでも立ち塞がる大きな壁を乗り越えてきた球児なら、本当に成し遂げるかもしれないと期待してしまう。奇しくも今年も平成22年の寅年、まちががなく球児の年である。何かが起こる予感を感じずにはおられない。

目標を高く持ち、その実現のために考え努力する。自分自身が野球を通して人間的に大きく成長し、どんな困難な事でも努力し成し遂げる力を持った事を、彼は子供たちに伝えて行きたいと考えているのだ。

その姿はまさに個性派で格好いい象徴といえる。ザナックスもそんな球児の様に「優れた機能を持ち、個性派で格好いいと感動されるブランドになる」というコンセプトのもと商品開発を行っています。

使っていく。
今年もストレートを一番の武器に



それは心に響いているか。



一流の選手には「風格」というものがある
それは何かを成し遂げたからではなく
何かを乗り越えてきたから

近道のない、ごまかしのきかない道のりを
歩んできた者だけに授けられる存在感

周囲や誰かの価値観に頼らず
自分の心の声に耳を傾け
自らの信じる道を突き進んできた者だけが
一流の「風格」を身につける資格がある

ザナックスが志す価値観も
彼ら一流の選手と同じだ

己が定め、己が認める絶対的な基準
そのものが完成するまでに費やされた
時間と手間に思いを馳せ
作り手の熱意や誠意が伝わってくるもの

ザナックスは優れた機能を持ち
個性派で格好いいと感動される
ブランドを目指します。